

どう見る

2023

福井経済

4

—繊維業界にとって、昨年ほどな1年だったか。

新型コロナウイルス感染症による経済活動の混乱は落ち着いてきたものの、外国人労働者が入国できず人手不足が加速し、操業停止を余儀なくされる工場が目立った。サプライチェーン（供給網）の一部で工場が停止すると後工程にも影響が及び、納期の遅れにもつながった。

コロナ下での需要が回復基調にある一方で、原材料費の高騰により利益が圧縮され増収減益の傾向だ。原材料を輸入に頼っている分、為替の影響も大きく産地にとって試練の年だった。—原材料高に伴う価格転嫁は進んでいるか。

県繊維協会 藤原宏一会長



「ピンチを好循環に転換する好機としたい」と話す県繊維協会の藤原会長＝福井市毛矢1丁目の広燃

試練乗り越切り好循環に

転嫁の動きはあるが、消耗度の低い衣料品の値上げ

への抵抗感は強く、十分にはできていない。プライスリーダーが上げてくれないと、他のメーカーも上げにくいのが現状だ。原料の仕入れ価格は待たなしで再値上げが続いている。原料メーカーは転嫁へ対応は。

後継者不足により廃業する企業も多い。一部の有力企業だけ残っても産地の活力はなくなっていくため、個々の企業もしっかりと向き合い、取り組まなければならぬ。人をつなぎとめるために

ふじわら・こういち 九州芸術工科大（現九州大）卒。1986年に繊維産元商社の広燃（福井市）入社。取締役などを経て97年から社長。2017年から県繊維協会の会長を務める。64歳。

は、ある程度の賃金は払っていないといけないが、経営が圧迫される中で簡単に賃上げはできない。国や県の後押しをお願いしたいが、支援に依存し過ぎても企業が立ち上がる力が生まれない。困難な時代だからこそ、事業を見直し、採算の合わない事業をやめて新しいことを始めるなど、経営努力によって対応力を身に付けていきたい。コロナ禍でリモートワークが定着したよ

リサイクル 産地で完結へ

うに、ピンチを好循環に転換するチャンスと捉え、試練を乗り越りたい。

—SDGs（持続可能な開発目標）推進や環境負担軽減のために産地としてどう取り組むか。

欧州を中心に世界的に環境認証の取得が必須になりつつある。分業製の産地では全段階で取得が必要となり、ハードルが高くコストもかかる。認証取得に向けたサポートを協会や行政で引き続き行っていく。

また、糸くずや端切れなどの廃棄物を回収し、綿や糸に戻してリサイクル商品を作る一連の流れを産地内で完結させようと、数年前から協会を中心に取り組んでいる。昨年、廃棄物の回収からリサイクル商品の生産までを試験的に行った。今年は多くの企業を巻き込んで事業を軌道に乗せ、安定した供給や収益化を目指す。（聞き手・川上みなみ）